

令和2年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立合川小学校					
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1 授業改善 ・わかる授業をめざした指導方法の工夫・改善に取り組む。 (児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」95%以上) (保護者アンケート「学校は、確かな学力の育成をめざし、わかりやすい授業に努めていますか」95%以上) ・みえスタディ・チェックの結果分析を行い、授業改善に活かす。 (県平均以上)	○児童アンケート100% ○保護者アンケート99% ●第1回みえスタディ・チェックは4年生国語が県平均を上回ることができなかった。 ○5年生が2月に実施した第2回みえスタディ・チェックは国語・算数とも県平均を上回った。	○ICTも活用し、わかる授業に取り組んだ。 ●第1回みえスタディ・チェックでは4年生の算数・理科、5年生国語・算数・理科は県平均を上回ったが、4年生国語が県併記を上回ることができなかった。結果分析を行い、弱みを全教員で共有し、授業改善に取り組んだ。	・教えられたことを覚えるという状態以上に、新しい段階に進むようになるとよい。 ・達成状況が上がっており、教職員の取組の成果である。 ・児童も少ないので、個々に対する取組ができている。	・ICTをさらに活用し、授業改善に取り組む。 ・全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果分析を行い、課題を共有し、学校全体で課題克服に取り組む。
	2 英語教育の充実 ・児童に満足度の高いコミュニケーション活動を提供する。 (児童アンケート「英語の授業や活動は楽しいですか」95%以上)	○児童アンケート97%	○今年度も指導主事を招聘し、外国語科・外国語活動の研究授業を実施した。 ○授業だけでなく、イングリッシュタイムや校内掲示の取組を通して、児童はALTや友だちとのやり取りを楽しんでいる。	・校内掲示の取組など、普段から英語に触れる環境がよい。 ・英語は合川の特徴であるので、このまま続けてほしい。	・これまでに確立してきた合川スタイルの英語活動を校内全体で共有し、英語教育を推進する。 ・校内掲示やイングリッシュタイム等、低学年にもALTや英語に親しむ機会を提供していく。
	3 家庭学習の充実 ・宿題や自主学習の指導を通して、家庭学習の習慣化と定着を図る。 (児童アンケート「[15分×学年]の時間、家で勉強していますか」95%以上)	●児童アンケート80%	●年3回のノーメディアウィーク期間中は、家庭学習に意識して取り組んでいるが、家庭学習が定着していない児童もいる。宿題をしてこれなかった児童には、休み時間などを利用して指導している。	・「15分×学年」という表し方が、家庭での学習時間のめやすとしてとてもわかりやすい。 ・コロナ禍で児童の生活バランスが崩れた1年だったと思う。家庭学習の充実に引き続き取り組んでほしい。 ・家庭でも、保護者が子どもに指導するように啓発する必要がある。	・引き続き家庭学習の指導を継続していく。 ・家庭学習の重要性について、学校だより等で保護者に伝え、さらに保護者の協力が得られるように啓発していく。
	4 外国人児童教育の推進 ・JSLバンドスケールを活用し、日本語指導を推進する。 (JSLバンドスケール結果の検証)	○個別の指導計画に従って、日本語指導を実施。3学期にバンドスケールを実施。	○日本語指導教員と担任が連携して指導をすることで、児童は意欲的に学習に取り組んでいる。	・外国人児童が気持ちよく学習に取り組めるよう続けていってほしい。	・次年度も教育委員会と連携し、外国人児童の日本語指導を推進していく。
豊かな心の育成	1 自尊感情の育成 ・学校行事や児童会活動、縦割り班活動などで、子どもたちに「出番・役割・承認」の場や自他の違いやよさを認めさせる場を設ける。 (児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」95%以上)	●児童アンケート86%	●新型コロナウイルス感染症予防で、臨時休業になったり、行事の中止・内容の見直しがあったりして、児童に十分な活躍の場を設けることが難しかった。	・児童もコロナのことで振り回され、とまどった事もたくさんあったと思う。 ・行事が減り、児童の発表の機会が少なかった。 ・まだまだ以前の生活に戻ることは難しいが、その中でも児童ができること、楽しめる方法を考えていく必要がある。	・一人ひとりの児童が活躍できる場面を設定し、子ども同士が認め合う場を大切にしていく。 ・引き続き児童一人ひとりの様子をよく観察し、全教職員で共有し、よい行いを認めていく。
	2 自発的なあいさつの推進 ・あいさつ、チャイムを守った行動に重点を置き、教師が率先して取り組む。 (児童アンケート「自分から進んで気持ちのよいあいさつをしていますか」100%) (児童アンケート「チャイムが鳴ったら、席について勉強の用意をしていますか」100%)	児童アンケート ●あいさつ97% ●チャイム96%	●あいさつは定着しているが100%にはならなかった。 ○新型コロナウイルス感染症のため、休み時間を教室で過ごすことも多くなり、チャイム着席は昨年度より8%増加した。	・校内の児童の感じがたいへんよくなってきている。以前と比較すると子どもが明るい。 ・あいさつは社会に出ても大事なので、よく理解させてほしい。	・児童会活動を支援し、あいさつとチャイム着席の定着を図る。 ・引き続き教師が率先して、あいさつやチャイムを守った行動に取り組む。
	3 特別支援教育の充実 ・「すずかっ子ファイル」に基づく教育を行うとともに、ファイルの見直しを図る。 (毎学期) ・特別支援学級籍児童への理解を深める取組を進める。 (各学年1回以上)	○毎学期実施 ○各学年で実施	○毎学期ファイルの見直しを行い、一人ひとりの児童の特性に合った指導に努めた。 ○特別支援学級籍の児童がいる学年では、常に担任が児童理解を促していた。また、各学年で特別支援学級担任が児童理解を深める授業を実施した。	・特別支援学級籍の児童と一緒に参加するような授業・行事を工夫してよいと思う。 ・まずは、その子を知る事が大切だと思う。このまま続けてほしい。 ・理解を深める取組では、どんな話をしたかなど家庭でも話をしてくれた。子どもたちが真剣に考えていることがわかった。	・今後も学期ごとに個別の指導計画を見直し、一人ひとりの児童の特性に合った指導を行う。 ・引き続き、特別支援学級籍児童の理解を深める授業を実施していく。
	4 多文化共生教育の充実 ・多文化共生の授業を行う。 (各学年1回以上)	○各学年で多文化共生・国際理解の授業を実施	○レインボーホール前の掲示でも外国籍児童の母国であるペルーを取り上げた。	・自分のすぐ周りの環境だけでなく、広い世界があり、いろいろな人がいることを知る中で、自分が悩んでいることの解決策を見つけることができなければよいと思う。 ・国際感覚を身に付けるチャンスでもある。	・引き続き各学年で多文化共生・国際理解の授業を実施していく。

令和2年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立合川小学校		達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
安全安心な学校づくり	<b>本年度の活動(具体的な手立て)と指標</b> 1 不登校を生まない学校づくり ・教職員と子ども・子ども同士の温かい人間関係づくりに努める。 (児童アンケート「学校は楽しいですか」100%) ・日ごろから保護者との関りをもち、気になることがあれば早めに家庭訪問等を実施する。 (保護者アンケート「学校は、お子さんに対して親身になって対応し、一人ひとりを大切にされた教育活動を行っていますか」100%)	●児童アンケート99% ●保護者アンケート97%	○欠席が続く児童には、担任が保護者と連絡を密に取っている。また、気になる児童については常に全職員で情報共有し、見守っている。 ●「こまったことがあるときは、先生や友だちに相談したり、話をしたりできる」と回答した児童は91%で昨年度より5%減少した。	・学校へ行くのが楽しいと言ってくれることが一番よい。 ・児童の生い立ちを研究し、児童が何によって生きようとしているのか、学業にそぐわなくても興味のあることを伸ばすよう学校でサポートする。 ・学年を超えた全児童の情報を全職員が共有し、児童を見守るということは大切である。小規模校だからこそ、成し得られる特色だと思う。	・引き続き一人ひとりの児童に寄り添い、児童の思いを把握し、児童の情報を全職員で共有し、全校体制で児童を見守っていく。 ・スクールカウンセラーや関係機関との連携をさらに図っていく。
	2 いじめのない学校づくり ・人権教育を基盤とした集団づくりに取り組み、子ども同士のつながりを深める。 ・情報共有を徹底し、いじめをはじめとした問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。 (児童アンケート「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか」100%) (保護者アンケート「学校は子ども同士のつながりを大切にし、いじめのない笑顔あふれる学校にするために努めていますか」95%以上)	○児童アンケート100% ○保護者アンケート97%	○児童アンケートは100%であったが、各学期に実施するアンケートでは毎回いじめを訴える児童がいる。いじめを訴えた児童にはきめ細やかに対応し、保護者にも連絡をしている。	・他人より優位に立ちたいと思うと他人を見下げた言動が生じることがある。みんなで助け合って社会を作っていることを教えるのが必要。 ・話を聞いてもらえる場があることが大切。 ・アンケート結果からもわかるように、子どもたちはいじめはいけないことだとみんなわかっている。言葉のかけ方などでいじめられたと思うこともあるので、思いやりがある言葉がけが大事。 ・いじめか、悪ふざけかを見極め、早急に解決してほしい。	・学級活動や縦割り班活動など、子ども同士のつながりを大切にされた教育活動を引き続き行っていく。 ・一人ひとりの児童との関りに努め、教職員間で児童の情報共有を確実にし、すべての児童が安心して学べる環境づくりに努める。
	3 登下校の安全確保 ・安全安心パトロール隊やきずなの会と連携し、登下校時の子どもの安全確保に努める。 (児童アンケート「地域の人に見守られていると感じますか」100%)	●児童アンケート96%	●100%は達成できなかったが、ほとんどの児童が見守られていると感じている。また、きずなの会やパトロール隊のおかげで、交通事故や不審者情報は1件もなかった。 ○学期に1回は教職員が集団下校に付き添い、通学路の安全確認を行っている。	・地域の皆さんが学校に関われるような雰囲気づくりができている。 ・児童のいない方々が登下校を見守っている現状を検討する必要がある。	・保護者や地域の方に子どもたちの下校時刻や見守りへの協力を周知し、児童を見守ってもらえる人を増やしていく。
	4 防災教育・安全教育等の実施 ・防災訓練及び安全教室を実施し、危険の予知・予測や判断力を高める。 (防災訓練年3回、安全教室2回実施) (保護者アンケート「学校は、子どもの安全確保を配慮して教育活動を行っていますか」95%以上)	○防災訓練3回実施 ○安全教室2回実施 ○保護者アンケート99%	○新型コロナウイルス感染予防をはじめ、子どもの安全確保を第一に考え、教育活動を行った。 ○Jアラートが鳴ると児童はすぐに一次避難の姿勢をとるなど、適切な避難行動ができる。	・池、崖など危険箇所がどこにあるのか、児童・保護者に周知して、事故から回避できるように指導する。 ・児童が適切な避難行動ができるという事は、日ごろの避難訓練のたまもの。引き続き実施してほしい。	・引き続き、児童の安全を第一に考え、教育活動を行っていく。 ・防災訓練や安全教室の持ち方を工夫し、さらに児童の危険回避能力を高めていく。
開かれた学校づくり	1 鈴鹿型コミュニティ・スクールの推進 ・学校運営協議会での話し合いを基に、学校、地域、保護者が協働した学校づくりを進める。 (保護者アンケート「学校は、地域や保護者に信頼され、地域とともにある学校に向けて努力していますか」95%以上)	○保護者アンケート96%	○学校運営協議会で学校の課題について熟議を行いながら進めた。 ○PTAの廃品回収や除草作業など、今年も保護者だけでなく地域の協力も得て実施することができた。	・PTA、地域、学校ともたいへん良好。 ・地域の皆さんの関心も高いので、PTAともうまく連携してほしい。	・引き続きが学校運営協議会での熟議を大切にし、地域や保護者とともにある学校づくりを進めていく。
	2 情報発信の充実 ・学校だより・ホームページ・メール配信等で積極的に情報発信をする。 (保護者アンケート「学校は、学校だより・ホームページ・メール配信等で、積極的な情報発信に努めていますか」95%以上)	●保護者アンケート93%	○新型コロナウイルスの対応等、メール配信も活用し、スムーズに保護者に連絡をすることができた。 ▲ホームページの活用について、工夫していきたい。	・コロナ禍から新しい発想が出たり、学ぶこともあるので、今後活かしてほしい。 ・よくできている。	・保護者や地域のニーズに合った情報発信に努めていく。
教職員の働き方改革	1 教職員の総勤務時間の縮減 ・一人当たりの月平均労働時間 30時間以下 ・年360時間を超える時間外労働者数 0人 ・月45時間を超える時間外労働者の延べ人数 0人 ・一人当たりの年間休暇取得日数 22日以上 ・設定した日の定時に退校できた職員の割合 85%以上 ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 50%以上	○月平均労働時間 25.9時間 ●年間360時間を超える時間外労働者4人 ●月45時間を超える時間外労働者のべ13人 ●年間休暇取得日数20.4日 ○定時退校できた割合 85% ●60分以内の会議 20%	●新型コロナウイルスの影響で、教員が毎日放課後に消毒をするなどで、時間外が多くなった時期もあった。 ●全体的に時間外労働時間は減少しているが、月45時間を超えることがあった。 ●夏季休業が短くなったこともあり、休暇の取得は目標を達成できなかった。 ●会議の数を減らした分、60分以内で終了できないことが増えた。また、新型コロナウイルスの影響で行事の見直し等もあり、会議時間が増えた。	・コロナの影響で余分な業務が入り、大変だったと思う。次年度も続くと思いがすが頑張してほしい。 ・消毒など、地域に協力を求めることも考えてはどうか。 ・PTAが手伝えることがあれば協力する。 ・教員が憧れの職業になる事を願う。 ・今後も会議の回数・時間を減らす努力をしてほしい。	・特定の教員に業務が集中しないように、業務を適切に割り振っていく。 ・校務支援システムを活用し、会議の方法を見直し、回数・時間の短縮に努める。